海外団体紹介

HelpAge International

貧困高齢者を支援する世界的NPO

黄色部分：現在活動展開地域。黒点：HelpAge International 事務所所在地
(www.helpage.org/Worldwideより作成)

HelpAge International(HAI)は、世界の貧困高齢者のクオリティ・オブ・ライフ(QOL)の向上を目指して活動している唯一の国際的ネットワーク(NPO)である。1983年、カナダ、コロンビア、インド、ケニア、イギリスの5団体が、理念や財源を共有し、変革に向けて共同の基盤を構築するために設立された。理事会によって運営され、会長はAARP(全米退職者協会)元会長Horace B. Deets氏。理事12名のうち6名以上は、加盟団体の代表から選出される。活動資金は、EU、国連などの国際組織のほか、約50ヵ国の政府、信託・財団、NGO、個人等から提供されている。現在は、アフリカ、南米、アジア、東中欧、カリビアン諸島の50ヵ国に70支部を置き、国際団体、政府、研究所、NGOから草の根高齢団体まで、世界各地の1,000を超える関連団体と幅広く連携し、活動を続けている。

■活動目標

①高齢者の貧困緩和

発展途上国の高齢者の大多数が貧しい生活を送っている。80%の高齢者は定収がなく、高齢者を含む世帯の貧困率は他より29%高い。高齢未亡人は最も貧しく、最も弱い立場にある。高齢者への公平な財源の分配、社会年金制度を確立する。

②高齢者の人権の擁護と確立

虐待、年齢・性差別の撤廃を目指す。高齢は重荷ではなく財産である。高齢者の能力や家族、社会貢献の評価を提言する。特に家族内で家事、孫の世話、病人の介護を担いながら決定権がなく、地位も低く、年齢・性と二重の差別を受けている高齢女性の人権擁護とその確立をはかる。

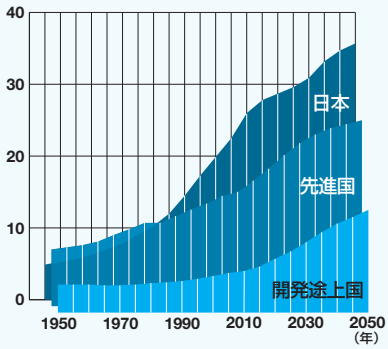
③HIV/AIDS患者と家族の救済

HIV/AIDSで子どもを失い、その子ども(孫)を養育している高齢者が多数存在する。孫や高齢者自身もHIV/AIDS感染のリスクを持っている。実践的な支援、研究の推進、政府、NGOによる世代間を超えたエイズ対策を実施する。

■高齢者の大多数は発展途上国に居住

発展途上国の60歳以上人口と世界で占める割合

2000年	3億7,400万人	62%
2015年	5億9,700万人	67%



■世界の高齢化率の推移(%)

出典：平成17年版高齢社会白書
資料：UN, World Population Prospects：The 2004 Revision ただし日本は、総務省「国税調査」および国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(2002年1月推計)」による。
注：先進地域とは、北部アメリカ、日本、ヨーロッパ、オーストラリアおよびニュージーランドをいう。開発途上地域とは、アフリカ、アジア(日本を除く)、中南米、メラネシア、ミクロネシア、ポリネシアからなる地域をいう。

④緊急プログラム実施

自然災害、紛争、経済変革などの影響で、特に困難な状況にある国々では、高齢弱者支援のための緊急プログラムを作成し、実施する。

■主な活動

①実践活動支援

各地域の高齢者団体、地域開発団体、NGOとの共同事業「プログラム・ワーク」を推進するために、加盟団体に研修を実施している。また高齢者自身が有用な研究、プログラム、提言に、直接かかわれるよう支援している。

②ネットワーク強化

加盟団体、エイジング関連NGO、政府自治体、研究団体、資金提供者、国際団体、国連などの幅広い機関・団体で情報共有が可能なネットワークの確立を支援。これによってエイジング関連団体の発展、草の根活動経験と政策との結合、高齢者の声を結集する国際連合体の設立などが可能となった。

③啓蒙活動の展開

2002年、スペインのマドリードで開催された「第2回国連高齢化に関する世界会議」で決議された行動計画に基づき、「エイジング」を政策の主要事項とするように各国政府に提言。高齢者だけでなく、全世代がよりよく暮らせる社会の創造には、世界、国、地域レベルでのエビデンス・ベースの政策提言活動が不可欠であることを示した。さらに対話、情報共有、陳情運動、イベントの企画などを通して、NGO、資金提供者、コミュニティ、さらに高齢者自身にも啓蒙活動を行っている。

■主な刊行物

『Annual Review』(年次報告書)

年間の活動報告・計画の概要。活動を世界に幅広く周知する目的で発行。

『Age and Security』(2004年刊行)

統計資料に基づき「社会年金によっていかに、貧困高齢者とその家族に効果的な支援を提供するか」を検証している。

HelpAge International Asia/Pacific

HAIアジア太平洋地域開発センター

HAIの70ある支部のうち、発展途上国が多いアジア地域の活動の中心「HAIアジア太平洋地域開発センター」は、タイのチェンマイに拠点を置き、40を超える加盟団体や共同団体と協力して、30あまりのプロジェクトを展開。活動中心地域の平均寿命は、過去40年間に中国で31年(71.1歳)、フィリピンで21年(68.3歳)、バングラデシュで20年(62.6歳)延びており、アジアでも著しい高齢化が進んでいる。アジアに住む高齢者は世界の高齢者の半数を占めるが、その割合は2050年までに3分の2に増大すると推測される。こうした人口の変化は、政府、NGO、家族、そして高齢者自身に大きな影響を与えている。

■アジア太平洋地域の現状と対策

①経済支援対策

アジアの高齢者の多くは、食糧、水、家屋等の基本的なニーズさえ満たされず、困窮している。社会サービスの財源が乏しく、高齢者のニーズの優先順位は低い。元公務員、軍人、正社員を除いては、年金による老後の所得保障はほとんど、あるいはまったくない。

これらの現状に対しセンターは「発展途上国の高齢者に、基本的なサービス、非拠出年金、介護の無料提供」「高齢者の家計改善のための所得創出活動」などの対策を立てている。

②介護者として働く高齢者への対策

かつてアジア社会には、年少の家族が高齢者を介護するしきたりがあった。しかし都市化の進行によって多数の若年親族が職を求めて家を離れ、同時に女性の教育や雇用が向上した結果、こうした介護の伝統は崩れつつある。逆にHIV/AIDS罹患率が高い地域では、多数の高齢者が患者の家族を介護し、孤児を養育している状況が発生している。

これらの現状に対しセンターは「各国の政策立案者、寄付団体、市民社会、高齢者介護団体が、各々のエイズ政策・計画に、エイズ感染高齢者だけでなく、介護者として働く高齢者への支援策を含める」ことを提言。エイズ患者、孤児、虚弱児の介護者・養育者としての高齢者の役割を認識させる活動を続けている。

③災害対策

インド洋沖地震による津波や巨大地震など、この地域の高齢者は深刻な自然災害のリスクも多い。しかし高齢者は弱者グループと見なされることが少なく、援助やリハビリ支援も乏しい。センターは自然災害による深刻な被害を受けた高齢者には、適切な援助を提供している。

以上のような支援政策を効果的に推進するために、地域のNGO、政府、市民団体と協力している。また、一般参加型の調査、研究、ニーズの査定等を実施し、センターの提言活動の展開に、有用なエビデンスを把握することに努めている。

■主要プロジェクト

①バングラデシュ高齢者調査プロジェクト

政府の生活保護構想に基づき、バングラデシュの貧困高齢者、特に高齢女性に不可欠なセーフティネットを提供。年金受給資格を逸している人が多いため、本プロジェクトは、二つの政府のサービス(老齢手当、弱者生活改善プログラム)の受給者の拡大を目指す。

②アジアの高齢者の在宅介護促進

東南アジア在宅介護プロジェクトを推進して、ASEAN10ヵ国で、ボランティアベースの在宅介護プログラムを確立することを目指す。HAIの加盟団体「HelpAge Korea」がプロジェクト提携者に研修と支援を提供している。

③HIV/AIDS感染高齢者地域支援

HAIはチェンマイの15の村、タイ北部のLampang地方と共同で、HIV/AIDS感染高齢者とその家族の状況の改善を支援。介護、支援体制の向上とHIV/AIDSへの認識を深めることを目指す。

④ラジャスタンの高齢者の水道の普及

インドでは、水道普及プロジェクトによって、従来の雨水利用システムを用いて農作物の生産性を高めてきた。また家畜の提供、貯蔵管理の研修を実施して、家計所得の増加に貢献している。

■主な刊行物

『HAI Asia/Pacific Regional Conference』(年次報告書)

HAIアジア・太平洋地域会議報告書。1993年、第1回会議がマニラで開催されて以来、毎年開催されているアジア・太平洋地域会議の報告書。

『AgeNews –Asia/Pacific–』(季刊誌)

アジア太平洋地区の人口高齢化および高齢者の人権問題の重要性について啓蒙するとともに、HAIネットワークを強化するため情報の共有を目的にしている。

『Voices of Older People from Asia/Pacific』

アジア太平洋地域各国の高齢者の生の声と表情を紹介するとともに、彼らに何ができるかを具体的に伝えている。